

## 北陸沿岸都市の温暖化の特徴－水蒸気が加速する温暖化－

## Trend of Warming in the Hokuriku Seaside Cities-Enhanced Warming due to Water Vapor Feedback-

# 川平 浩二 [1]

# Kohji Kawahira[1]

[1] 福井県大 学教センター

[1] Fukui Pref. Univ.

## 1. 序

気象庁の温暖化算定の観測所は北陸地域では、富山県高岡市の伏木のみである。

「20世紀の日本の気候」(2002, 気象庁)によれば、伏木の気温経年変化は+1/100年以下であり、日本全体の平均+1.06/100年より小さい上昇率となっている。富山市、金沢市および福井市の気温の変化を解析し、北陸の温暖化の特徴を考察した。

## 2. 変動とその特徴

基準点である伏木と金沢の気温変化を比較した図(右上)によれば、伏木の気温上昇率は明らかに小さい。950年以降は金沢と同様な変化傾向になっている。富山および福井の解析の比較も同じ特徴を示した。金沢の気温変化傾向を名古屋と比較し図(右中)によれば、ほぼ似た変化傾向を示した。若干名古屋が大きい。都市の規模の比較から見て、納得し難い結果である。福井や富山も神戸や浜松と同様な気温傾向が見られ、北陸の沿岸に位置する都市は、大きな気温上昇率が見出された。そのために、伏木は北陸の代表的気温変化を示していないといえる。

この理由は右下の図に示されるように、水蒸気量は金沢が名古屋に比べて多いことによる。水蒸気のフィードバック効果によって、二酸化炭素増加による温暖化が増幅され、大都市の名古屋と同等な温暖化傾向を示していると考えられる。

右上: 伏木と金沢の気温変化

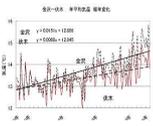
1886年-2005年

右中: 名古屋と金沢の気温変化

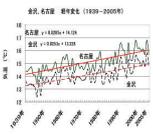
1923年から2005年

右下: 1月平均水蒸気圧(hPa) 金沢と名古屋 1970年 2005年

右上：伏木と金沢の気温変化  
1896年～2005年



右中：石川県と金沢の気温変化  
1923年から2005年



右下：1月平均水蒸気圧 (hPa)  
金沢と石川県 1970年～2005年

